

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	fun		
○保護者評価実施期間	R6年 1月 1日		～ R6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	R6年 1月 1日		～ R6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一つ一つの活動に対して5領域・ねらいを具体的にしていることで、個々に合わせた支援を提供している。	活動カレンダーに5領域を掲載することで、保護者だけでなく、職員の把握にもなっている。	個々のスキルを高めることで、利用者一人一人に合わせた質の高い支援が提供できるよう日々研鑽する必要がある。専門職を配置することで、多角的な支援が提供できると更によい。
2	園との併行利用を事業所として保護者様に進めており、地域の中での児童発達支援として根付かせてきた。各機関と連携がとれる体制を整えている。	互いの事業所同士の見学を行うことで、支援方法の共通理解とともに積極的にコミュニケーションをとるようにしている。	今まで以上に、積極的なコミュニケーションをとる中で、地域として児童発達支援がどうあるべきかを考えていく。
3	積極的に様々な施設・療育センターに見学に行くことで支援の向上に努めている。	療育センター等に見学に行き、支援に対して助言して頂ける機会を確保している。	更に研修機会を増やしていく。児発管だけでなく職員皆が参画できる機会を設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	園との併行利用されている利用者が多いため、保護者様と対面で接する機会が少ない。児発管以外の職員が保護者様との面識が乏しい。	保護者様の負担軽減を図ることが要因であると考えられる。	自宅訪問を今後積極的に取り入れることで、児発管だけでなく、職員一人一人との関係構築となるよう工夫していく。
2	園との情報共有は適宜行っているが、交流機会が少なく今後の課題としている。	交流方法の案がなかなか思いつかないのが現状。	他事業所で行っている例を取り入れ、実践していく。
3	昼食代が実費となることで食事支援がうまく進められていない。	昼食が実費であることや、利用時毎にお弁当持参では保護者様の負担が大きいと推測される。	食事支援が必要となった利用者においての実費負担の在り方を検討する。